

# UIFA JAPON

## NEWSLETTER

### ■主な内容

#### 総会案内

海外交流の会報告「モンゴルの福祉事情」

「女性と建築展」

・女性建築家の力強い活動の軌跡

・「女性と建築展」からの問いかけ

この指とまれ報告

UIFA会員の本

ユニバーサルデザインを考える

役員会報告



海外交流の会風景

### UIFA JAPON

#### 第10回通常総会・記念講演会へのお誘い

1992年に設立されてから10年にあたる今年、UIFA JAPON2002年度総会が6月29日に開催されます。ひとつの節目を迎え、今後の活動の方針を決める大切な総会ですので、ぜひご出席くださいますようお願い致します。

#### ■通常総会・記念講演会

日時：2002年6月29日(土) 13:30~17:00

会場：ゆうぼうと 5階カルチャープラザ 研修室「ゆたくり」東京都品川区西五反田 8-4-13 電話 03-3490-5111  
プログラム：

①総会 13:30~14:15

1. 開会
2. 挨拶
3. 議長他選出
4. 議事

- 第1号議案 2001年度の活動及び収支報告、監査報告
- 第2号議案 役員選出
- 第3号議案 2002年度の活動計画案、及び予算案

5. 閉会

②記念講演会 14:25~15:45

「林・山田・中原設計同人の44年間」

講師：中原暢子 UIFA JAPON 会長

③懇親会 16:00~17:00

参加費：記念講演会 UIFA 会員 1000円

非会員 2000円

懇親会 会員・非会員ともに 1500円

参加申込：6月14日(金)までに UIFA JAPON 事務局へ

#### 記念講演会「林・山田・中原設計同人の44年間」

UIFA JAPON 第10回通常総会記念講演会は、1963年にド・ラ・トゥール UIFA 会長がパリで UIFA を発足させたときのパーティーから出席され、UIFA JAPON の発足にもご尽力された中原暢子会長に講師をお願いいたしました。「林・山田・中原設計同人の44年間」という題目で、共同事務所の運営・仕事のやり方などについてお話していただき、後半スライドで作品の紹介をしていただく予定です。女性建築家のパイオニアである中原会長のお話をぜひこの機会にうかがいましょう。

#### 海外交流の会報告「モンゴルの福祉事情」

第26回海外交流の会が2月16日健保プラザで開催され、日本女子大学名誉教授 一番ヶ瀬康子先生による「モンゴルの福祉事情」についてスライドによる現地写真の紹介と共に講演がありました。参加者は非会員を含め34名。当日の講演内容をご紹介します。

#### 一番ヶ瀬先生のお話を聞いて

吉田洋子

#### WACの草の根の活動

モンゴルはとても遠いところにある国という印象があります。しかし中国や韓国とともに東アジアの国々の一つとして日本に近く、又、日本人のルーツともいわれており、本当はもっと私たち日本とつながりを持ってよい国です。一番ヶ瀬先生はそのモンゴル政府の要請で、草の根の活動としてソビエト政権下になかった福祉政策をモンゴルにどのようにして根付かせることができるかの活動をしていらっしゃいます。

一番ヶ瀬先生のリードのもとモンゴルではWAC(社団法人長寿社会文化協会)を設立、リハビリセンターを作って、そこを拠点とした福祉政策を根付かせようとしています。大草原の真っ只中に出来たリハビリセンターはどんな役割が果たしているのか、遊牧民の生活の中で福祉はどのような状況なのかについて一番ヶ瀬先生は話されました。私は草の根の活動としてモンゴルとの交流が続けられていることに感服すると同時に、ぐんぐん話にひきこまれて行きました。

#### 注目されるモンゴルの伝統医療

モンゴルではソ連体制の中で医療もソ連化していたのですが、20世紀末には大統領制の新しい民主国家として新しい道を歩み始め、再びモンゴルの伝統医療が注目されてきたとのことです。

モンゴルの伝統医療は患者との触れ合いを大切に、先生が触診し、時間をかけて診察していくそうです。又、



季節に合わせた食べ物、衣類、生活習慣などを考え、予防医学にも力を入れているとのこと。リハビリセンターの中でもこの伝統医療を横軸として活用し、モンゴルらしい福祉政策を展開しようとしているのです。モンゴル人と日本人とは体質も似ているので、私たち日本には役立つ部分も多いのではないのでしょうか。

### 日本館の建築を

一番ヶ瀬先生のWACの活動は、モンゴルと日本が交流し、お互いに学び合い、その中で日本が援助できること、援助すべきことは何なのか考えていくというやり方をしています。とても意味のある活動と思いました。

モンゴルと日本の交流を子どもの時から進めるために、インターナショナル・チルドレン・センター（ソ連時代のピオネール）の中に、日本館の建設を行おうという資金集めも行っているとのことでした。冬はモンゴルの子どもたちだけが、夏の間は世界の子どもたちが集まってこのセンターで集います。日本の子どももこの中に入って小さい時から交流することができれば、相互交流が一層前に行くことになるのではないのでしょうか。

また、今までの日本の海外活動の仕方はかなり間違ってきたのではないかというお話しには「そうだ、そうだ」と思いました。例えば道路整備でも立派な道路はつくる、しかし援助の限界で短い道路しかつけれない。むしろもっと粗雑な造りの道路でもモンゴルの生活のためには長い道路が出来た方が役立つのではないか。ガラス張りの建築もモンゴルの生活とはかけ離れ、ガラスの汚れも目立ち決して良い建物とは言えない。こんなお話しにもモンゴルだけでなく世界への日本の経済援助のやり方のまずさに、本当にうなずくお話ばかりでした。

### 遊牧と農耕の両立が課題

先ほどの伝統医療のお話しではありませんが、私たちもモンゴルの知恵に学ぶところは学び、モンゴルも経験がないことからハードな面などでは失敗もたくさんあるようなので、そこは私たち日本人が知恵や技術を提供するといった関係が望ましいのだということが本当によく理解できました。

モンゴルの人たちはビタミンを馬乳から摂取してきました。今までは遊牧にとって農耕は土をバサバサにしまうので敵でした。しかしモンゴル人も都市生活者が増え、野菜からビタミンを摂るべく、グリーン革命とよばれる畑づくりを始めています。遊牧とこの農耕をどう両立させていくかもモンゴルの新しい課題となっており、この点でも日本の技術が活用できないものかと思えます。UIFAにも入っているモンゴルの女性建築家も、夢を膨らませているとのこととても心強い気持ちになりました。

モンゴルはソ連体制から離れ、自由市場経済の中で自由の良さの反面、貧富も広がってきています。その中で福祉の向上は重要なのですが、また社会福祉より社会計画の方がよいのではというお話は、機会がありましたらゆっくりと一番ヶ瀬先生にうかがいたいと思いました。

## 「女性と建築展—仕事と家庭の両立を支援する住まい・まちづくりに向けて」

女性と仕事の未来館主催で「女性と建築展」が開催されている。この展覧会ではUIFA JAPON が会をあげて協力している。中島明子さんは、企画監修やイベントのコーディネーターなど中心的な担い手として活動されており、当会メンバーも多く参加している。主催イベントは4、5、6、7月と連続して開催されている。期間は8月20日まで。協力： UIFA JAPON, 日本建築士会連合、東京建築士会 林・山田・中原設計同人

企画協力：生活構造研究所

会場の「女性と仕事の未来館」は女性たちが働くことをサポートする事業を総合的に展開することを目的とした建物で、明治から現在に至るまでの女性たちが働いてきた歩みなどの常設の展示や、女性と仕事をめぐるさまざまな情報がそろうライブラリーなどもある。場所は、JR 田町駅から徒歩3分、都営浅草線・三田線の三田駅出口A1より徒歩1分と交通の便の良いところ。イベント情報、アクセスなど詳細は女性と仕事の未来館のホームページで <http://www.miraikan.go.jp>

### 女性建築家の力強い活動の軌跡

安東眞記子

「女性と建築展」の展示は大きく4つのテーマで構成されていますので、テーマごとに概要をお知らせします。



年表



吉田文子さんの製図台と机



会誌『PODOKO』



吉田文子さんの遺品

### I 女性の社会進出と住まい・まちの変化

このテーマの展示はUIFA JAPONの担当です。会場に入って一番に目に入ってくるのは、中島明子さんがまとめられた年表です。歴史や世の中の流れと共に、女性建築家の活動の歴史を知ることができる見ごたえのあるものです。

その年表の手前にショーケースがあり、UIFA JAPONの設立のベースとなった最初の女性建築家の会「PODOKO」の会誌である『PODOKO』や、早稲田大学付属早稲田工手学校の最初の女性卒業生である吉田文



子さんの遺品などが展示されています。吉田文子さんの製図台と机の展示もあり、当時の道具や製図の様子をうかがうことができます。取材時には模型はまだ準備中でしたが、旧同潤会大塚女子アパートメントの保存再生に関するパネルなどの展示もされています。

## II 住まい・まちづくりの担い手

### —女性の増加と職種の広がり—

最初に、住まい・まちづくりの担い手として女性が進出して状況を、各大学の建築学科における女子学生数の推移しているデータから増加の様子を読み取っています。

さらに具体例として、「住まい・まちづくりの担い手—30人からのメッセージ」では、仕事と家庭をどのようにこなしているか、建築における様々な分野の方の写真とコメントのパネルで紹介されています。女性の住まい・まちづくりの担い手が、建築家や行政関係のみならず様々な職種に広がっていることが実感できます。

「日本の女性建築家の先駆者」では林・山田・中原設計同人の軌跡を振り返っています。さらに、模型と図面・写真のパネルにより代表的な作品が、おのおの2、3点ずつ展示されています。

## III 住まい・まちの現状と課題

「まちを観る」「職場を観る」「住まいを観る」と3つのパートからなっています。

「住まいを観る」では仕事と家庭の両立をどう支援しているかを提案した、3世帯住居群、職住一体の住居などの実作品3点がパネルと模型で紹介されています。UIFAの会員である中野晶子さんの作品、「彫刻と棲む家」が展示されています。

## IV 住まい・まちへの提案—女性建築家の描く未来

仕事と家庭の両立する住まい・まちづくりを提案する新しいコミュニティと仕事づくりの試みが紹介されています。

「ともだち村」プロジェクトでは、中心施設である「ライフハウスともだち村」のコンペの最優秀作品のパネルと模型が、共生型集住—コレクティブハウジングの提案では、かんかん森の模型とパネルが展示されています。最後には、各都道府県の建築士会の女性委員会による活動の内容や作品などの紹介のパネルが締めくくります。地方においても女性建築士が活発に活動していることをうかがうことができます。

この他に、関連書籍の展示やビデオの上映も用意されています。この書籍やビデオは、UIFA JPONの会員から多数貸していただいたものです。

この企画を通して、女性であることを意識して住まい・まちづくりに関わることを、十分に考えさせられる気がします。皆様、ぜひ、ご覧になってください。



コレクティブハウス「かんかん森」模型



「ともだち村」コンペ受賞作品

## 「女性と建築展」からの問いかけ

和洋女子大学 中島明子

松川淳子さんから声がかかり、うかつにも引き受けてしまったが後の祭り。私が担当した前史と年表パネルは、やはり字が多すぎた！といってもこれも後の祭り。手前のガラスケースに展示してある吉田文子さんや浜口ミホさん、そして、ポドコの資料にしっかりと目を向けてもらうのがよい。それは女性建築家のパイオニアに関する垂涎の資料である。



左から山田、林、中原の各氏

反省しきりではあっても、作業自体は非常に楽しかったし、勉強になった。中原、小川、小谷部先生、宮本さんのお話も刺激的だったし、松川さんを筆頭に、杉野さん、篠原さんの深夜に及ぶ作業に触れたのも嬉しかった。建築学科最初の女性を北海道に見つけたり、やりたくてもできなかった建築系女子学生の実数調査も一気に進んだ。

作業の途中で、旧同潤会大塚女子アパートメントの保存運動を知った。これは、今回展示のテーマである「働く女性を支援する住まい」の象徴であり、19世紀から20世紀にかけて欧米先進国で試みられたフェミニストデザインの影響をみることができる、歴史的記念碑でもある。この保存は、働く女性たちを大いに励ますだろうし、活用の夢は膨らむ。

ところで、準備をされていて気づいたこと2つ。ひとつは、この企画を通して「女性と仕事の未来館」と松川さんが、空間づくりに携わる女性に、「仕事と家庭の両立を支援する住まいやまちづくりに貢献している？」と問いかけているのではないかと思ったこと。私たちは日々精一杯良い仕事をしていると思っているが、足元を見直し進むべき道を探ってみようという提案か。私たちはこれに応えられるかどうか。

もうひとつ。展覧会にあたって、多くの資料が収集された。それらが散逸することは勿論惜しいが、単に収集保存するのではなく、活用するためにも「女性と建築アーカイブス」が必要だ。あわてて住宅総合研究財団の研究助成に応募した。しかし助成が通らずとも、集められた資料を基礎に、『日本の女性建築家（仮）』をまとめ（勿論英語版パンフレットも）、21世紀の日本の女性建築家の活動の指針にするのはどうか。そうすれば、“ロ（くち）プランナー”と自嘲している私にもUIFAの居場所を見つけられるような気がする。

日本ほど、女性の建築技術者が組織され、活躍している国はおそらくないだろう。しかし、その割には日本の生活空間があまりに見苦しく、貧困であるのはなぜなのか？ 女性建築家の役割は何なのかを改めて考えてみたい。



〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-6-5  
麹町 E・C・K ビル 佛生活構造研究所内  
TEL 03-5275-7861 FAX03-5275-7866  
メールアドレス uifa@IQL.CO.JP

■この指とまれ報告

「中川と背後地」の見学

三上紀子

「中川と背後地」-東京東部低地帯に位置する中川・荒川・新中川に囲まれたこの地域は土地の大部分が満潮時の水位より低く、まちを水害から守るため高さ 7m のコンクリートの堤防が街を取り囲んでいます。今回の見学の目的は「中川と背後地」の現状を見聞し、スーパー堤防\*と併せたまちづくり「堤防の街=BankTown」について考えようというもので、NPO「ア！安全・快適街づくり-水と緑とやすらぎのある街づくり推進機構」NPOの代表石川金治氏にご案内していただきました。

まず、NPOの事務局のある大成化工(株)の会議室にてNPO活動の目的、隅田川でのスーパー堤防テラス整備事業の実例、今後の活動についての説明を受けた後、上平井水門の見学、中川堤防~新川沿岸の散歩へと出掛けました(現在、中川堤防では耐震治水事業として河床の地盤改良や鋼製矢板の打設工事、一部テラス整備工事が行われています)。川に臨んだ堤防からの景色はすばらしい一方、人影はまばらで、地域と川とが交通量の多い都道で分断されているのが残念に思えます。途中、親水公園や江戸川競艇場を横手に見ながら延々約 5km の道のりを経て新川へ。新川は近年コンクリートの堤防が取り払われて遊歩道が整備され、塩の運搬道として主要交通路であった時代を偲ぶ記念碑が建っています。歩道から水面も間近で、おだやかな風が通り過ぎていました。その後、都営新宿線船堀駅まで歩き、心地よい疲れと共に解散となりました。

その昔、江戸の町では随所に川と共生した豊かな生活空間が展開していたといわれます。戦後の技術革新と経済成長の中で水辺空間は日常空間からすっかり忘れられてしまったのでしょうか。帰路途中、事務局で見せていただいた 1 万分の 1 の巨大地図に写し出された東京のまちと河川群との様相を思い出しながら、先の時代の人々が残してくれた河川を生活環境資源として正しく受け継ぎ、次世代に渡していく大切さを改めて思いました。

\*「スーパー堤防」

治水や地震対策の強化に加えて土地の有効利用・良好な河川環境の整備及び都市環境の向上を目的として、河川沿いの都市再開発事業と一体的に幅の広い盛土を行った堤防のこと。

■UIFA 会員の本

『蒔かれた「西洋の種」』

川崎裕子著 ドメス出版

明治・大正期に来日した宣教師たちは本来の伝道活動に加えて、生活文化の伝道者でもあった。ことさらキリスト教未開の地を選び、したたかに生活改善や住宅改良に尽くした彼らを通して、いかに生活の洋風化が浸透していったかを本書では明らかにしている。特に婦人宣教師たちの果たした役割には大きな評価が与えられている。



ユニバーサルデザインを考える

ユニバーサルデザイン国際会議に参加して

柳澤佐和子

第 2 回ユニバーサルデザイン国際会議が米ロードアイランド州プロビデンス市で 2000 年 6 月に開催され、世界 30 ヶ国 700 名弱が参加した。車椅子の参加者も多く、自分達でユニバーサルな社会づくりに取り組もうとする姿が見られた。本会議・フォーラム・交流会・展示会が開催され、国際問題・社会問題等の大きな課題から、公共事業・企業活動へどうデザインするかまで、住宅・環境・子供・高齢者等 18 テーマ、88 のセッションに分かれて研究やプロジェクトの紹介があった。訪問しやすい住まいづくり推進に取り組むテキサス州等では、玄関・廊下等の間口を広げる条例を検討中だとか、障害のある子ども遊べる遊具を設置したプレイロット等身近な生活環境デザインの発表に注目した。しかし、建築やプロダクトでは安全性が過剰に重視されたデザインが見られるとも指摘されていた。開発途上国では歴史・文化・経済などの価値観が欧米と違い、独自のユニバーサルデザインのあり方が追求されるべきだと意見もあった。国や分野を超えて隔離や差別の起こらない環境を造るにはどうすればよいかを工夫するのがユニバーサルデザインで、社会や人の意識にも大きな変革をもたらす概念であることを再確認させられた会議であった。次回の UD 会議は下記のように日本で開催される予定。詳しくは事務局へ。

開催日時/公開シンポジウム・開会式 2002 年 11 月 30 日

本会議(分科会・全体会議・展示会) 2002 年 12 月 1 日~4 日

開催場所/ノビフィク横浜横浜グランド・インターコンチネンタル・ホテル

主催/国際ユニバーサルデザイン会議 2002 組織委員会

事務局/相鉄エージェンシー/ノビフィク・コンベンション・サービス

TEL: (045) 450-7003 E-mail: info@ud2002.org

■役員会報告

第 11 回 2002 年 2 月 18 日(月)

出席者: 小川、飯島、草野、栗山、正宗、松川、柳澤、山田、渡辺

議事一・各部会報告

・2 月 16 日の海外交流の会総括

・今年度活動「未来館展示協力」について

第 12 回 2002 年 3 月 25 日(月)

出席者: 小川、飯島、草野、栗山、正宗、松川、山田

議事一・各部会報告

・未来館展示「女性と建築展」関連スケジュール

・次年度役員改定、予算策定、総会等スケジュール

・今年度活動「未来館展示協力」について

・次年度活動内容について

第 1 回 2002 年 4 月 25 日(木)

出席者: 中原、小川、飯島、草野、栗山、正宗、松川、山田、吉田(あ)、渡辺

議事一・各部会報告

・この指とまれ「水辺を歩く会」総括

・第 27 回海外交流の会について

・総会関連スケジュール

・「女性と建築展」、「ナディアさんを送る会」

■広報だより

4 月の編集会議は、この指とまれの企画に合わせて葛飾区立の公園施設で行った。たまにはこういうのもいい。(須永)

H-ページ <http://www.remus.dti.ne.jp/~yasiro> Eメール [yasiro@remus.dti.ne.jp](mailto:yasiro@remus.dti.ne.jp)  
創業 1945 年

**昭和建設株式会社**

注文建築専門一筋の会社

昭和建設(株) 一級建築士事務所  
東京都杉並区天沼 1-4-6-6

代表取締役 矢代 捷  
(実践女子大学 講師) T 03-3392-8228  
F 03-3398-8822

一級建築士  
一級建築施工管理技士  
建築資格者  
I プランナー  
M リフォーム m  
二級福祉住環境 C

正宗量子一級建築士事務所

tel/fax 03-3729-9614

手づくりの旅  
印象的な旅で感動を!

**Cirrus**  
Travel Consultants

渡辺 博子  
Tel: 3844-8633 Fax: 3844-8604  
E-mail: [cirrus@camel.plala.or.jp](mailto:cirrus@camel.plala.or.jp)